

## センター試験英語リスニング導入前後における TOEIC 得点に関する調査研究

— 国際文化コース, 中等英語, 幼児教育を対象として —

建内 高 昭 (愛知教育大学 外国語教育講座)

小塚 良 孝 (愛知教育大学 外国語教育講座)

## An analysis of TOEIC scores before and after the introduction of listening test of the National Center for University Entrance Examinations

— A case study of international cultural studies majors, English majors and early childhood majors —

Takaaki TAKEUCHI (Department of Foreign Language Education)

Yoshitaka KOZUKA (Department of Foreign Language Education)

**要約** 教員養成のあり方を検討することを目的として, 第一に客観英語能力に関わる新入生前期と後期における英語能力の推移を考察した。第二に大学センター入試英語リスニング導入前後において入学者の客観英語力(特にリスニング力)への影響を探った。結果は, 英語専攻・国際文化コースではいずれの年度においても客観英語力が向上していることが示された。次にセンター入試にリスニングが導入されたことにより, 国際文化コースでは有意に得点が伸び, また英語専攻において有意差は示されていないものの得点が上昇していた。一方で幼児コースにおいては, 有意な差は示されていない。これらから本学入学者において, 英語専攻や国際文化コースなど英語を専攻する入学者はセンター入試にリスニングが導入され, より高い客観英語力を身に付ける契機となり得たと指摘できる。

**Keywords** : 英語リスニング, TOEIC

### はじめに

グローバル化が進む社会の中で, 英語の実践的コミュニケーション能力を高めることが求められており, 高等学校学習指導要領外国語の目標に「情報や相手の意向を理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」(文部省, 1999)と示されている。センター試験の英語において, 2006年度から新たにリスニングが導入されたことは, 実践的コミュニケーション能力を具現化した典型例の1つであろう。

英語リスニング試験を導入したことにより, これまで以上に受験者は, 英語リスニングに対応した様々な準備を行っていると推察される。例えばセンター試験対策のために高校での英語リスニングに特化した授業時間を確保するなど, 従来のリーディング主体の英語授業から変化が見られている。すなわち入学者が身に付けた英語力への影響が予想される。そこで本論は愛知教育大学入学者において検討を行なうことにする。

愛知教育大学での英語力向上を掲げた取り組みとし

て, 外国語科目(英語)における必修単位として英語 I・II・III・IV及び英語コミュニケーション I・IIが設定されている。特に英語コミュニケーションでは1クラス30人以下規模での充実した外国語学習環境を描いている。そのような中2005年度より外国語教育講座英語グループの取り組みとして TOEIC を1年生全員に年2回受験する機会を設けた。TOEICは, リスニング及びリーディングセクションに分かれ, 総項目数が200問で総実施時間は120分で構成されている。

新指導要領に小学校での外国語活動の必修化(文部科学省, 2007)が明記されるなど, 今後英語コミュニケーション能力向上を目指す必要性はますます高まってきている。大学入学時点での客観英語力を TOEIC に基づき入学者に示すことで, 大学4年間での各自の語学力に対する意識付けが明確になると考えられる。入学者は, コースに関わらず科目として英語 I・II及び英語コミュニケーション Iを受講することになる。そこで TOEIC による測定を行なうことにより, 授業クラスの特異性を排除して多数のクラスで行なわれている英語力を横断的に捉えることができ

る。とりわけ、2011年度から新たに始まる小学校外国語活動も見据えて、英語コミュニケーション能力を高めておくことは小学校、中学校現場を担う教員志望学生にとっては、身に付けるべき基本的な能力の1つであるといえよう。

### 1. 本調査の目的

国公立大学及び一部の私立大学における入学者選抜試験としてセンター試験科目の英語に初めて英語リスニングは2006年度に導入された。この試験の導入に際して、受験者たちは英語リスニング対策を含めた準備を進めてきているものと予想される。本研究の目的は2つに大別できる。第1は、客観英語力を示す TOEIC において入学者の英語力の変容を探ることである。第2の目的は、センター入試において英語リスニングが付加されたことによる影響を探ることである。

### 本研究の意義

愛知教育大学では、2005年より大学1年生に対して年2回 TOEIC を実施している。TOEIC は全学の英語授業である英語 I ・英語 II のねらいと連動したものと位置付けられ、今後の本学における TOEIC の扱いを考えていく上でも基礎的な資料になるものと期待できる。また900余名の入学者全体像からは必ずしも明らかにされていないコース別による TOEIC データを捉えることができるものと考えられる。また単年度のみではなく、4年にわたる年度ごとに異なる入学者の客観英語力を測定することができるものと考えられる。

### 調査対象者

入学時点において、センター試験及び2次試験に英語が課されている2コース（英語専攻・英語選修、国際文化コース）と、センター試験の英語のみによる入学者である幼児教育コースを対象とした。

表1. 学科別の TOEIC 受験者数の基本統計

	国際文化	英語専攻	幼児教育
2005年4月	122	17	16
2006年3月	66	15	14
2006年4月	102	24	20
2007年1月	75	20	12
2007年7月	75	26	20
2007年12月	77	26	14
2008年7月	71	24	20
2008年12月	69	23	16

2005年度及び2006年度においては、国際文化コースにおいては介護体験等の実習日と日程が重なったために、受験者が大きく減少している。また2007年度より

国際文化コース、英語専攻では、改組転換にともないコースごとの入学定員に増減が見られる。

## 2. 結果

### コース別の基本統計量

表2. 国際文化コース1年生 TOEIC 成績の基本統計

	平均点	リスニング	リーディング	最高点	最低点	S.D.
2005年4月	425.6	240.4	185.2	580	155	81.5
2006年3月	452.7	249.5	203.1	635	260	96.6
2006年4月	479.3	273.5	205.8	835	250	93.8
2007年1月	512.2	291.0	221.3	795	265	101.4
2007年7月	445.3	241.1	204.1	610	270	72.2
2007年12月	455.8	246.9	208.8	615	270	82.0
2008年7月	465.6	246.7	218.8	775	255	111.8
2008年12月	470.4	255.1	215.2	730	210	114.4

表3. 英語専攻1年生のTOEIC成績の基本統計表

	平均点	リスニング	リーディング	最高点	最低点	S.D.
2005年4月	496.2	266.8	229.4	990	340	145.3
2006年3月	589.0	299.3	289.7	980	400	127.7
2006年4月	518.3	286.4	231.8	785	330	95.6
2007年1月	548.7	290.0	258.7	645	375	65.9
2007年7月	534.4	281.9	252.5	710	365	79.1
2007年12月	593.6	324.4	269.2	755	335	72.3
2008年7月	570.2	298.1	272.0	850	335	126.1
2008年12月	593.0	306.0	286.9	865	420	131.5

表4. 幼児教育専攻1年生のTOEIC成績の基本統計

	平均点	リスニング	リーディング	最高点	最低点	S.D.
2005年4月	431.3	249.7	181.6	600	275	88.3
2006年3月	425.7	215.0	210.7	575	240	92.7
2006年4月	395.0	230.0	165.0	570	250	81.9
2007年1月	421.6	246.2	175.4	575	210	127.9
2007年7月	386.3	208.0	178.3	565	275	72.2
2007年12月	389.2	204.6	184.6	525	260	90.7
2008年7月	411.3	227.0	184.2	565	275	72.6
2008年12月	375.0	212.5	162.5	525	215	94.6

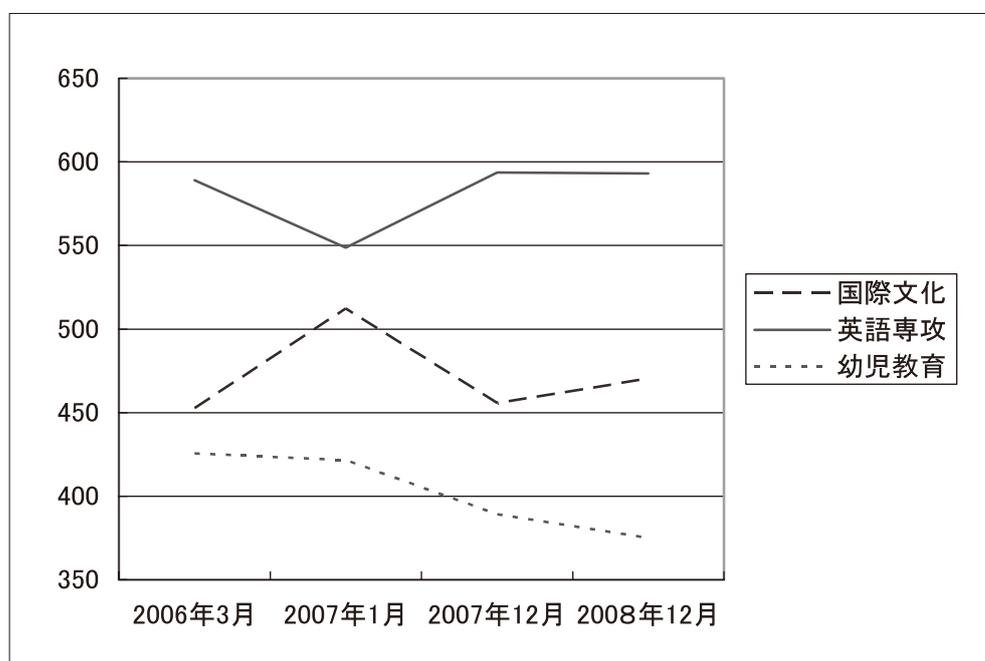


図1. 各年度における専攻ごとの1年生後期のTOEIC得点の変化

表2～4及び図1は、2006年から2008年までのTOEICの成績を示したものである。これらから専攻・コースごとに年度ごとに得点推移はあるものの、コースごとにほぼ一定のレベルで入学後の英語得点を取得していることが分かる。英語専攻では1年後期時

点での取得点はほぼ一定で、平均が581.9点である。次に国際文化コースは473.4点である。そして幼児教育コースは401.2点である。概ね入学時点よりも英語力を伸ばしていることが分かる。

## 2. 1. センター入試リスニング導入前後における入学者の取得点の比較

次にセンター入試にリスニング試験が未導入であった2005年度と、新たにセンター試験に英語リスニング

が導入された2006年度との比較を各コースごとに2元配置分散分析、さらに各要因の単純主効果を分析した結果を以下に示す。

表5. 国際文化・英語専攻・幼児教育 05年度と06年度における二元配置分散分析

	<i>F</i>	
国際文化	11.06	$p < .01$
英語専攻	0.28	<i>n.s.</i>
幼児教育	0.51	<i>n.s.</i>

表6. 国際文化 05年度と06年度での多重比較

	<i>Mse</i>	
TOEIC 得点	15.86	$p < .01$
リスニング	21.01	$p < .01$
リーディング	5.77	$p < .05$

表7. 英語専攻 05年度と06年度での多重比較

	<i>Mse</i>	
TOEIC 得点	0.03	<i>n.s.</i>
リスニング	0.33	<i>n.s.</i>
リーディング	0.01	<i>n.s.</i>

表8. 幼児教育 05年度と06年度での多重比較

	<i>Mse</i>	
TOEIC 得点	1.45	<i>n.s.</i>
リスニング	1.47	<i>n.s.</i>
リーディング	0.75	<i>n.s.</i>

国際文化コースにおいて2元配置分散分析の結果、交互作用が認められた(表5)。そこで各要因の単純主効果を分析した結果、表6に示すとおりとなった。2006年度における TOEIC 得点、リスニング、リーディングの3要因の単純主効果については Tukey 法による多重比較の結果、TOEIC 得点、リスニング、リーディングのいずれにおいても有意に伸びていた。具体的な得点差では、2006年度入学者はリスニングにおいて33.1 (=273.5-240.4) 点高いことが明らかになった。またリーディング得点において、20.6 (=205.8-185.2) 点伸びていた。

英語専攻において2元配置分散分析の結果、交互作用は認められなかった(表5)。次に各要因の単純主

効果を分析した結果、表7に示すとおりとなった。3要因の単純主効果は認められなかった。ただしリスニング得点を比較すると2006年度は2005年度よりも19.6 (=286.4-266.8) 点上昇していることが示された。

幼児教育コースにおいて2元配置分散分析の結果、交互作用は認められなかった(表5)。次に各要因の単純主効果を分析した結果、表8に示すとおりとなった。3要因の単純主効果は認められなかった。具体的にリスニング得点を比較すると、2006年度は-19.7 (=230.0-249.7) 点となり得点が減少している。またリーディング得点-16.6 (165.0-181.6) 点となり得点が減少している。

### 3. 考 察

愛知教育大学入学者は、センターでのリスニング試験導入の結果として、国際文化コース及び英語専攻学生をはじめとして、概ね客観英語力が伸びていることが示された。なかでも国際文化コース入学者では有意に英語力を伸ばしていた。具体的にはリーディングは微増の得点上昇が見られ、リスニング得点は2006年度に33.1点と上昇幅が大きい。このような背景として、国際文化コース入学者は、2次試験においてリスニング試験を課されていないことも要因の1つとして考えられる。次に英語専攻においても同様に客観英語力を高めていることが示された。しかし英語専攻では分析結果からは必ずしもリスニング導入前とリスニング導入後との比較から、得点が有意に伸びているとは認められなかった。その理由のひとつとして、英語専攻入学者に対しては2次試験において英語リスニングテストを以前より課していることが挙げられる。また入学者は、一定レベル以上の英語力があるために、センター試験でのリスニングの影響が小さかったとも考えられる。一方で幼児教育コース入学者のリスニング力は、センター試験導入前よりもTOEIC得点は下がっていた。その理由の1つとして、センター試験で評価するリスニング項目は、TOEICで求められるリスニング項目とズレがあることが指摘できる。具体的にはセンター試験におけるリスニングテストは30分間（説明文を除くと実質20分弱）で基本的な内容であるのに対して、TOEICリスニングは45分間で4パートに分かれ問題数も2倍以上である。

センター入試に英語リスニングが導入されたことが、本学入学者のすべてのコースにおけるTOEICリスニング力の向上に必ずしも結びついてはいなかった。すなわち本学入学者が入学後において英語を主専攻（英語専攻及び国際文化コース）とするか、あるいは必修単位取得に留まる（幼児教育専攻）かの影響が見られると考えられる。入学後においても英語を必要とする英語専攻及び国際文化コースではセンター入試の英語リスニング導入を契機としてリスニング得点が上昇している。

以上から大学入学時点で英語に関わる興味関心を持つ学生は、センター試験における英語リスニング得点だけではなく、入学1年後の客観試験であるTOEIC得点も押し上げていると考えられる。一方で英語力を大学入学時点までの試験科目として学習しても、入学後に英語の必要性が個人に委ねられている場合は、必ずしもセンター試験へのリスニング試験の導入がTOEICの成績におけるリスニング力の影響に結びついていないと指摘できる。

### 謝 辞

本研究は愛知教育大学学長裁量経費による成果の一部である。

### 参考文献

- 文部省（1999）『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局。  
 文部省（1999）『高等学校学習指導要領解説—外国語編 英語編』東京：開隆堂出版。  
 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説』東京：東山書房。  
 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東京：東洋館出版。